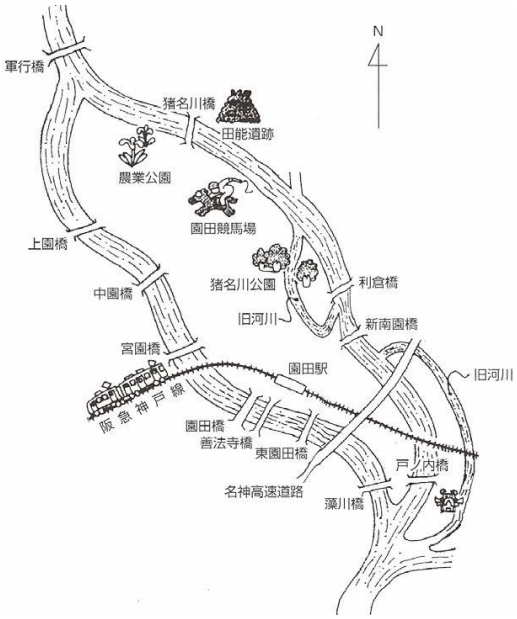
東園田の歴史

猪名川・藻川にいだかれて

東園田町は、尼崎市の東端にあり、東は猪名川、西は藻川に囲まれた中州になっています。

昭和 44 年の大改修工事の後、旧の堤防跡は「猪名川自然林」として、多くの自然が残されています。また、園田競馬場の近くには四季折々のやすらぎを提供してくれる「農業公園」があります。



利倉橋の向こう側は豊中市、伊丹空港に降りる飛行機。

東園田町の南側を流れる藻川に掛かる東園田橋、
渡ると弥生が丘霊園。

園田橋、南にいくと JR 尼崎。
2 号線、43 号線へ。

阪急神戸線の北側に掛かる宮園橋。

藻川の河川敷にある野球のグランド。
後の橋は中園橋。

猪名川は伊丹の境界、大野川を源とし、多くの川を合流しながら伊丹市口酒井付近で藻川を分流し、戸ノ内地先で再び藻川を合わせ神奈川に合流する。流域は大阪・京都・兵庫の二府一県にまたがり、流路延長は四三・二kmである。

猪名川は、昔から南岸が狭く、自然的に支流藻川が形づくられ、藻川は本流猪名川の補助的役割を果してきたが、一九六四(S39)、両河川は第一級河川となり、その両堤は整備され地域住民の憩の場となっている。

かつて両河川は、農民にとって命よりも大切な水源であり、多くの井堰(いせき)の樋門が設けられていたが、旱魃(かんばつ)用には幾度となく水論が起り、流血の惨事を引き起こした。

また、この水運を利用して上流から材木を筏に組んで流したり、伊丹や池田の酒を川舟で運び、神崎の泊りで海船に積み替えて遠く江戸まで運んだ。

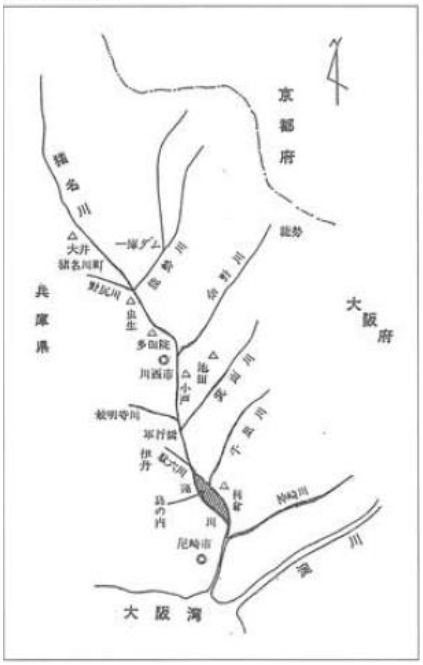
一方、両河川に囲まれた東園田（島の内）地区は、夏夏は蛍が飛びかい、河鹿(かじか)の音色、秋は松虫、鈴虫の音の風情という長閑(のどか)な田園風景から、豪雨ともなれば一変、両河川とも氾濫(はんらん)し、家も田畑も水没した。住民は幾度となく為政者に陳情をくり返した。しかるにこの島の内地区は、他地区の損害を最小にするために、一時的な滞水池とされていたのであり、豪園の度ごとに犠牲を余儀なくされていたともいわれる。

住民が枕を高くして眠ることができるようになったのは、一九六九年(S44)猪名川・藻川改修工事完了以後のことである。

園田橋より上流を臨む（藻川）

猪名川の堤防より上流を臨む

猪名川の流路



園田（園和）住宅と園和文化会の結成

1933 年（S8）、阪急電鉄が大阪に近い島の内地区に住宅計画を立てた。当初手がけた住宅建設は、線路に近い下食満、穴太、法界寺、戸ノ内、瓦宮、小中島、冨田、椎堂、中食満所属の各一部であった。阪急神戸線開通は、1920 年（T9）7 月であるが、園田駅の開設は 1936 年（S11）9 月のことであり、それと並行して同年 10 月に総面積 70,892 坪、戸数 180 戸の園田（園和）住宅が売り出された。（坪当たり 20～36 円）

土地つき建売住宅が建ち始め、自治組織が必要となってきた。当初生まれたものは園田同善会と称し、会員相互の親睦を目的として創られたもので、外部との交渉、連絡などはなかった。当時の住宅は戸数約 40 戸であった。

その後、わが国の軍国主義的気配を背景として、国民の自治、自衛的な組織の結成が促され、確固たる自治体としての園和会が創設された。会員数 43 戸であった。1941 年（S16）1 月住民の総意により、園和会は発展解消を遂げて時局に即応した園和部落会となった。目的として隣保団結の精神に基づき、住民相和して万民翼賛の本旨に則り、地方共同の任務を遂行するとある。同年 12 月 18 日、米英に対する宣戦布告と共に、各地自治体は、政府の指令の元に組み込まれていった。

1944 年（S19）に入ると、いよいよ本土空襲が本格的となり、園田（園和）住宅地にも園和警防団が組織された。防空訓練、勤労奉仕などが繰りひろげられ、国民義勇隊の編成もされた。1945 年（S20）3 月、大阪空襲、続いて神戸が焼土化し、尼崎においても 3 月以降 7 回の爆撃を受けた。園田における空襲は、園田国民学校（現在の園田小学校）の半焼、当時は兵士の宿舎として使われていた、6 丁目駅前通りにあった花嫁学校が爆撃を受け、また新家（現在の 6 丁目）、冨田（現在の 1 丁目）地区の一部が爆撃された。

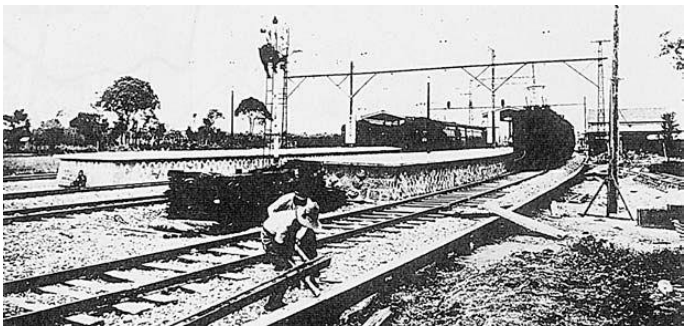
戦後は、所帯数 499 戸、人口 2,013 人の園和連合町会として、新体制を整えて発足した町会は、その 8 ヶ月後、進駐軍司令部による一切の集会、これに類する団体の禁止の発令により解散しなければならなかった。

敗戦後の数年は、国全体が生きることのみに追われ、他を顧みる余裕のない時代であったが、当地区は幸いにも被害が少なく、復興は比較的早かった。

1949 年（S24）、平和で安心の出来る生活をするために、自治会組織を作り、団結をしようという気運が興り、準備段階として、有志による親睦会、園和倶楽部がつくられた。

2 年間の準備期間を経て 1951 年（S26）4 月、会員相互の親睦と協調、生活文化の向上を図ることを目的として、園和文化会が結成された。当時の園田（園和）住宅は、所帯数 700 戸、人口約 3,000 人であった。

この後園和文化会は、その組織力をもって諸官庁その他との交渉等に多大な力を示すこととなった。



東園田の公園たち

園田の町には、地区ごとに公園があり、小さな子どもたちとのひととき、夏休みのラジオ体操、暖かい日はお昼の食事と一服、私たちの普段のくらしに深く関わり、長く愛されています。気持ちの良い季節です、公園へ行きませんか。

三丁目東地区　穴太公園

三丁目西地区 上園公園

四丁目地区　下食満公園

五丁目地区　法界寺公園

六丁目地区　東園田公園

九丁目地区　下園公園

九丁目地区　園和公園